

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0471500306		
法人名	社会福祉法人 壽清会		
事業所名	グループホーム 笹森の屋		
所在地 (電話番号)	大崎市清滝古川字笹森118-1 (電話) 0229-29-2590		
評価機関名	特定非営利活動法人介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	仙台市宮城野区榴岡4丁目2-8 テルウエル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成19年8月24日		

【情報提供票より】19年7月1日事業所記入

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年10月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	笹9人森8人	常勤1人、2人 非常勤7人、7人	常勤換算 7.8人7.9人

(2) 建物概要

建物形態	○併設/単独	○新築/改築
建物構造	RC造り	
	1階建て	1階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	平均 3,500 円
敷金	有() 円	○無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円	有りの場合 償却の有無	有/○無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1000 円		

(4) 利用者の概要(7月1日現在)

利用者人数	18名	男性	3名	女性	15名
要介護1	7名	要介護2	4名		
要介護3	5名	要介護4	2名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 82.5 歳	最低	74 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	高橋医院(内科)高清水診療所(外科)木村病院(神経科)高橋歯科診療所
---------	------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

公共交通機関の便が良いとは言えないが、笹森の里周辺は森と田園に囲まれ緑豊かで閑静な環境にあり自然に恵まれている。さらに敷地が広いこともあり、グループホーム(2ユニット)とデイサービスが同一敷地内に隣接して相互の交流が盛んに行われている。玄関や中庭には草花や果樹(リンゴ等)が植えられ入居者に季節感と癒しを与えている。(菜園や畑もある) このような環境の中で経営主体である壽清会の基本理念に基いた認知症高齢者のケアが実践されており、入居者は明るい表情でしかも落ち着いた生活を送っている。スタッフもケアサービスの質の向上に向けて生き活きと働いている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	ケアサービスのうち入浴に関して、入居者個人の希望する方法が選択できるように改善されている。運営体制のうち、地域密着型サービスの面及びホーム便り、ホーム独自の基本理念を含め今後の取り組みに期待したい。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者とスタッフ全員で、ほぼ一週間の日時をかけて取り組んだ結果、自己評価の意義について理解を深めることができた。この結果を今後のサービスの改善とケアの質の向上に繋げていきたいとしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	昨年12月に設置しこれまで2回の会議を開いている。また討議の内容を議事録にまとめているが、その中味を活かしての取り組みはこれからにかかっていると考える。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族は最大の協力者であるとの認識で対応しているが、家族会の結成等今後に期待したい。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域密着型サービスを推進することは必要欠くべからざる問題としてホームとして認識している。周りに民家が少なくと言うハンディはあるものの町内会に加入することで理解と協力、連携を強めていく努力と運営推進会議の利活用を考えられるのではないかと。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人壽清会の基本理念のひとつである、「地域社会から信頼され、地域福祉に貢献し続ける」を基にしたホーム独自のものとして地域密着型サービスの表現を盛り込んだ理念をつくり上げるため現在検討を進めているとのことである。	○	地域密着型サービスの文言を盛り込んだホーム独自の理念を作成し早期に全職員が共有し取り組むよう希望する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人の理念については、スタッフステーションに掲示しており、日々職員間で確認(共有)し実践に取り組んでいるが、前1項のホーム独自の理念を加え共有し実践していくようにして頂きたい。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	長寿クラブや婦人会等の協力を得て、地域活動(諸行事)に参加している。今のところ町内会には加入していないが、地域密着型サービスを重視する観点から、町内会との関係が密接なものになるので検討したいとのことであり期待したい。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価について、管理者スタッフ全体で、ほぼ1週間の日時をかけて取り組んだ結果、評価の意義の理解を深め合うと同時に今後のサービスの改善及び質の向上に繋げて行くことを確認し合った。今後とも継続していきたい。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年12月に設置し立ち上げていて、これまで2回会議を開いている。構成メンバーは地区長家族代表、包括支援センター(行政)及びホームの管理者(2名)であり、議事内容や質疑応答等議事録を作成している。尚、具体的な意見をサービスの向上に活かしていきたい。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	日頃から連絡を取り合い、情報交換や相談を通して連携を密にしている。今回の評価当日も同行者として大崎市高齢介護課の主査が終日参加し連携を深めていただいた。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ケアサービスを提供する上で最大の協力者は家族であるという事から、入居者の日常生活、ホームでの暮らしぶりを家族に伝える義務がある。報告や意見交換は言うまでもないが、法人の広報誌に加えてホームとしての「たより」の発行について検討することになった。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期連絡時や家族の訪問時に意見や苦情を聞き運営に反映させることと併せて、運営推進会議の利活用についても考えたいとのことであるので見守りたい。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	年1回の法人内の定期異動以外、離職も含め必要最小限に止めている。止む得ざる場合は入居者に対し説明をしており、影響やダメージを与えないよう配慮している。		
りようしゃ					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時や年3回～5回の内部連続研修の他に外部研修にも力を注ぎ職員の育成に取り組んでいる。宮城県グループホーム連絡協議会への加入についても検討している。また障害のある方(1人)を職員として配置している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の同業者と交流する中で情報の交換や話し合いを通じて地域サービスの質の向上に向けた取り組みを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>く</p> <p>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>					
12	26	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>家族の協力を得て全職員が入居者とコミュニケーションをする中から個々のバックグラウンドを把握し信頼関係を築き、馴染めるように工夫している。</p>		
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>					
13	27	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>人生の大先輩である入居者に対して尊敬の念を大事にして日々の暮らしの中で学び支え合う関係を築きながらケアに取り組んでいる。</p>		
<p>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>					
14	33	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者個々の思い、希望、意向の把握に努めているが、現状十分とは言えない。</p>	○	<p>そのため、より綿密な個々の情報を把握しケアプランに反映する手法のひとつとして、現状使用しているアセスメントシートの様式(書式)の変更について検討しているので、期待したい。</p>
15	36	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画作成に当っては、本人・家族及び関係者と話し合いそれぞれの意見を反映するよう記録に残すなどチームで作る入居者本位のものになっている。このような中で不要とする家族もいるが今後は必ず渡すようにしていく。</p>		
16	37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>モニタリングを行ない3ヶ月ごとに見直している。また状態の変化が見られた場合はその都度新たな介護計画を作成し本人、家族、関係者と話し合っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	各事業所合同による行事やサークル活動を実施している。また必要な時には同一法人のデイサービスに配置されている看護師の応援を得ている。	○	今後、家族を含めた個別外出プランを立案し実施していきたいとのことなので期待したい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通院送迎サービスの他に、家族の不安を解消するため、職員、家族と一緒に受診対応の支援を行っている、また受診記録を主治医に報告し指示を受ける等の支援もしている。なお服薬に当ってダブルチェックを行い慎重を期している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に向けた方針の共有については、入居当初に家族、主治医と話し合いをし決めている。終末期については、医療的な課題もあり、基本的な方針をベースにしながらその都度関係者と話し合っていたきたい。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	認知症高齢者に対しても尊厳の念を忘れずケアに取り組んでいる。従って個々のプライドやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応をしないよう全職員が心がけている。個人情報の取り扱いについても気を配っている。		
21	52	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者個々の希望や要求、或いはその日の体調に合った過ごし方が出来るようコミュニケーションを中心にしたアセスメントを実施し支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事をしている入居者の表情がとても明るく家族的な雰囲気を感じられる。食事前の準備や後片付けも入居者と職員が自然な形で一緒にやっている。個々の嗜好についてもアセスメントし、栄養士と連携して好みのものが作られている。またホームの畑で収穫した野菜を調理して食卓を豊かなものになっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	家庭的な浴室(個浴)で週に3~4回入浴できる。夜間は別として入居者本人の希望により対応支援している。中には入浴を拒む方もいるが、「足洗いニューヨークに行こう」等ユニークな誘い方を工夫しながら対応することで効果が上がっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	比較的に広い敷地と建物だけに玄関まわりや中庭、リビング等に色々なしつらえを施している。草花はもちろんリンゴの木等の樹木が植えられていたり、畑からはネギ、キュウリ、ナス、トマト等の野菜を収穫し食材にするなど、趣味と実益を兼ねた支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物日を週2回設定、散歩を兼ねた支援をしている。また美容院や墓参り等、家族と共に随時外出できるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	居る 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関については日中は施錠していない。ただし居室については、一部入居者の希望でプライバシー保護の上で施錠することがあるが、この場合家族に話し了解を得ている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	宮城県沖の大地震を想定した場合、入居者の避難救助と消防署はもちろん地域住民の協力が第一であり、従来の防災訓練(年2回)に加え夜間を想定した訓練について早期に実施する必要性から近く運営推進会議の中で協力要請をしていきたいとのことであり、期待したい。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスやカロリー計算について、管理栄養士によるチェックを行っている。さらに本人の体調に応じてカユやキザミ食等に対応している。一方で食欲を誘い増進するようなメニューを提供することも併せて行ったり、水分量が不足がちな方については嗜好品を補給する等の工夫もしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
あ					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	和室とリビングを開け放した広々としたスペースに季節感のあるスダレや朝顔のつるを張る等涼を感じさせる設定をしている。またすっきりした雰囲気の中にも、時計の位置が見易いところにかけてられたり、カレンダーや本日の献立が貼られていたり、実用的、家庭的である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	さらに居室には、持ち込まれた箆笥の上に仏壇が置かれ位牌や遺影を大切に飾っていること、ベッド周りも整理されていること等から落ち着ける居場所になっていると感じられた。なお、光、音、色、空気の流れ等五感の点から言って違和感を感じられなかった。		